

麻酔・救急

Anesthesiology, Emergency & Critical Care Medicine

ユニット責任者：救急医学 教授 平 泰彦

ブロック名		期間	ブロック責任者
第2ブロック	麻酔・救急②	6月5日～6月8日	下澤 信彦
第3ブロック	麻酔・救急③	10月23日～10月26日	下澤 信彦

1. ユニット概要・学習内容

麻酔：麻酔科医が従事する診療について幅広く知識と技法を学ぶ。手術の麻酔では、合併症を有する患者の麻酔、産科領域の麻酔、小児麻酔、心臓血管手術の麻酔、区域麻酔法などを学び、集中治療、ペインクリニックおよび緩和医療について理解を深める。その前提として、麻酔科診療で用いる各種薬剤について学習する。

救急：救急医療と集中治療を臨床現場で実践するための知識と技法を学ぶ。外傷診療の基本となる JATEC の診療手順と、見逃してはならない致命的な外傷、救急画像診断を知ることによって外傷診療の流れを理解する。蘇生後、中毒、体温異常、ARDS、ショックといった、救急領域特有の過剰な侵襲に対する生体反応と多臓器不全を理解し、制御の手段を学ぶ。BLS と ALS、RRS を学び、病院外と院内での急変・心肺停止への対応を理解する。臓器提供を望む症例への対応と、災害における活動の多様性を学ぶ。

2. 到達目標

- 1) 麻酔関連薬物の作用機序、代謝、有害作用を概説できる。
- 2) 合併症を有する患者や特異な状態の患者の麻酔計画の基本を概説できる。
- 3) 外傷診療の流れを説明できる。
- 4) 侵襲の原因による特徴を理解し対処方法を説明できる。
- 5) 心肺停止に対する蘇生法と対応システムを説明できる。
- 6) 臓器移植と災害医療における実際の行動を説明できる。

3. 学習上の注意点

2年生で学んだ、生体反応（炎症反応）の基礎を復習しつつ、手術室、救急外来、集中治療室における、個々の病態の特徴と対応を学ぶためには、総論の復習が必須である。外傷診療、移植医療、災害医療においては、標準となるガイドライン・プロトコールが確立しつつあるため、言葉を正確に学習する必要がある。3年生では、各論の病態を理解しつつ、臨床における実践方法を学ぶ。

4. 教科書

救急診療指針（へるす出版）—— 救急医療の総論を学ぶ。

標準麻酔学（医学書院）—— 麻酔総論、概念を学ぶ。

周術期管理チームテキスト（日本麻酔科学会）—— 麻酔の臨床を平易に学ぶ。

Basics of Anesthesia 7th ed.（Elsevier）—— 医学生に最適な洋書。Kindle版あり。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	2	100（%）	

当ユニットでは学年末再試験を実施する。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
救急医学	教授	藤谷 茂樹	水曜 12:00～12:30	救急医学 医局(東館 3F)	内線 3931
麻酔学	教授	井上 莊一郎	水曜 11:30～12:00	麻酔学教室 (医学部本館4F)	内線 3453
救急医学	講師	下澤 信彦	事前に医局秘書を介してアポイントをとること		内線 3931